

様式2

個別事業に関する進捗状況報告書

団体名 ニセコ町

フォローアップ項目	取組方針	取組内容	資料番号	部門	平成28年度の計画	平成28年度の進捗		平成29年度の展開	
					計画	進捗状況	計画との比較	課題	計画
C,E	熱分野を中心とした低炭素なまちづくり	温泉排水や温泉熱利用の促進	1-2	業務・その他	<ul style="list-style-type: none"> ■温泉排水・温泉熱利用の促進 温泉エネルギーの効果的な活用設備の導入 ・累計1施設 	北海道「一村一エネ」事業(760万円の事業費のうち340万円の補助)を活用し、1温泉施設に熱交換器を導入。	b	当初予定より給湯量が少ないため、計画よりもCO2削減量が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ■温泉排水・温泉熱利用の促進 新たに1温泉施設に温泉熱を利用したシステムを導入 ・累計2施設
E	熱分野を中心とした低炭素なまちづくり	公共施設への再生可能エネルギー導入	1-3	業務・その他	<ul style="list-style-type: none"> ■公共施設への再生可能エネルギー設備導入 町内温泉施設綺羅乃湯照明LED化 幼児センター照明LED化 	綺羅乃湯の浴室・トイレ等の照明をLEDに更新。幼児センターの増築改修に伴い照明をLED化。	b	増築改修に伴う公共施設への再エネ導入は既設のボイラーなどがある場合は導入がむずかしい。新設時に対応するのが望ましい。	<ul style="list-style-type: none"> ■公共施設への再生可能エネルギー設備導入 近藤小学校省エネ改修
D,E	持続可能な観光の推進	観光客の交通の低炭素化	2-3	運輸	<ul style="list-style-type: none"> ■観光方法の低炭素化 ・レンタルサイクル利用 200台(5km/台想定) ・自転車によるグリーンツーリズム(民間) 400台(20km/台想定) 	㈱ニセコリゾート観光協会によるレンタルサイクル事業(有料電気自転車)。自転車299台、バイク38台の利用実績。自転車によるグリーンツーリズム(民間)。ニセコクラシック等各自転車競技を開催。881台の利用実績。	a	観光手段の一つとして、低炭素車の導入を進めるには、観光バス運営会社への呼びかけ、寒冷地でのEV操作性など技術的な課題の解決が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ■観光方法の低炭素化 ・レンタルサイクル利用 220台(5km/台想定) ・自転車によるグリーンツーリズム(民間) 600台(20km/台想定)
D,E	観光と環境の横断的な取組み	観光事業者へのCO2削減支援及びCO2排出抑制	3-3	業務・その他	<ul style="list-style-type: none"> ■観光事業者の照明LED化 新たに1施設で照明のLED化を行う 	観光施設の照明LED化 2施設 新しい取組:観光事業者向けエネルギー勉強会の開催 3回 観光事業者省エネ診断 5施設	a	温泉排湯利用について関心を得られるものの、初期投資が高く、導入が難しい。投資回収年数の短縮、ESCO事業などで初期投資を軽減する仕組みが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ■観光事業者の照明LED化 新たに1施設で照明のLED化を行う。 観光事業者へのCO2排出削減支援を行う(省エネ設備支援、温泉熱利用支援など)。
C,D	町民生活における省エネ及び再エネの普及	地域内交通の低炭素化・効率化	4-4	運輸	<ul style="list-style-type: none"> ■地域内交通の低炭素化・効率化 デマンドバス利用目標前年度比2,500人増加(利用目標人数22,500人)。 	2台の運営体制で合計15,280件(前年比▲321件)、18,445名(前年度比▲944名)の利用があった。	c	予約センターが混み合い、乗車できない事例も増加しており、デマンドバスの効率的な運行及び増台にかかる財源確保が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ■地域内交通の低炭素化・効率化 デマンドバス利用目標前年度比2,500人増加(利用目標人数25,000人)。 デマンドバスの乗合率の向上に向けた運用の効率化に努めるとともに、利用者への周知、デマンドバス増台の検討を行う。
C,E	農業や産業における再エネの普及	雪氷熱倉庫・雪室等の導入	5-1	産業	<ul style="list-style-type: none"> ■雪氷熱倉庫の継続稼働 初期投資をかけずに雪氷熱利用する方法の情報収集や、既に雪氷熱を利用して保管している農産物のブランド化に取組む。 	・雪氷熱利用について初期投資を軽減するための情報収集や方法の検討を行った。 ・雪氷熱を利用して保管している農産物のブランド化の取組を行ったが、高付加価値化までは至らなかった。	b	農業分野における雪氷熱倉庫以外の再生可能エネルギー活用が進んでいない。	<ul style="list-style-type: none"> ■雪氷熱倉庫・雪室等の導入支援 雪氷熱利用米穀貯蔵庫の継続稼働及びブランド化の推進。 ■農業分野における再エネの普及 新たな再エネの導入を検討する。
C,D	スマートコミュニティ・ニセコの実現	温泉熱・地熱・バイナリー発電	6-4		<ul style="list-style-type: none"> ■地熱バイナリー発電・地熱発電 民間企業による地元説明、地表調査、地熱理解促進事業に参画 	民間事業者が経済産業省「地熱開発理解促進関連事業支援補助金」において、住民・温泉事業者等へ地熱開発についての基礎知識や再生可能エネルギーの意義を中心に勉強会、講演会及び事例視察を実施。	b	地域の資源・エネルギー循環の仕組みづくりが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ■地熱バイナリー発電・地熱発電 民間事業者による地熱資源開発に向けた地表調査継続。 地元温泉事業者などと地熱理解促進事業を活用し、地熱発電についての理解を深める協議会を設立。
C,D	スマートコミュニティ・ニセコの実現	水力発電	6-6		<ul style="list-style-type: none"> ■水力発電の活用 高圧契約の10公共施設の新電力購入開始。 	役場庁舎等10公共施設について、町内の水力発電所をエネルギー拠点にもつ新電力会社、王子伊藤忠エネクス株式会社と電力契約を結んだ。	b	地域の資源・エネルギー循環の仕組みづくりが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ■水力発電の活用 地域のコミュニティセンター6施設の電力を新電力会社から購入する。

※1 アクションプラン上、平成28年度に取り組む(検討を含む。以下同じ。)こととしていた主要事業(アクションプラン様式4取組内容詳細個票)についてのみ記載すること。
(フォローアップ項目、取組方針、取組内容、資料番号は、アクションプランから該当部分を転記すること。)
なお、平成28年度に新規追加を行った主要事業については、アクションプラン様式4取組内容詳細個票を作成のうえ記載すること。

※2「計画との比較」欄は、アクションプランへの記載と比した進捗状況を示すものとし、「平成28年度計画」と「取進捗状況」欄を比較して、以下の分類によりa)～d)の記号付すること。
a) 計画に追加/計画を前倒し/計画を深掘りして実施、b) ほぼ計画通り、c) 計画より遅れている、d) 取り組んでいない